



『炭鉄港』日本遺産認定記念  
 ありがとう！ 鹿児島



# 北海道日本遺産 “炭鉄港”を巡る旅

Tan Tetsu Kou



歴史は薩摩藩から始まった!

❖ ごあいさつ ❖

## 鹿児島県の皆様

「炭鉄港(たんてつこう)」は、近代北海道を築く基となった三都(空知・室蘭・小樽)を、石炭・鉄鋼・港湾・鉄道というテーマで結ぶことにより、人と知識の新たな動きを作り出そうとする取り組みです。

「炭鉄港」のストーリーは、令和元年5月20日に文化庁が選定する「日本遺産」に認定されました。

これを記念して「炭鉄港」の礎となった薩摩藩のおひざ元である鹿児島県よりお越しいただき、当時の繁栄の足跡を辿っていただきたく、今ツアーを企画しました。単なる北海道観光とは違う側面で北海道の歴史をご覧いただきたいと思います。

炭鉄港推進協議会会長(芦別市長)

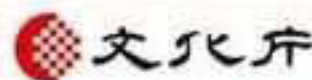
荻原 貢

## 旅行日程

2021年

11月19日[金]～21日[日]

このツアーは令和3年度文化庁文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の補助を受けて販売しております。ご旅行終了後、アンケートへ回答いただくことが参加条件になります。





# A 炭鉄港3地区巡り

TanTetsuKou

募集人員 40名



北の産業革命「炭鉄港」は、北海道の発展に大きく貢献してきました。当時の繁栄の足跡は、空知の炭鉄遺産、室蘭の工場景観、小樽の港湾そして各地の鉄道施設など、見る者を圧倒する本物の産業景観として今でも数多く残っています。今ツアーは3日間という日程で各地区を巡って参ります。

日次	行程
①	ANA542 鹿兒島空港 → 伊丹空港 → ANA773 新千歳空港 → ジンギスカン 昼食 → 夕張市石炭博物館 → ホテル(芦別市)
②	オプション: 6:00~旧三井芦別鉄道炭山川橋梁~7:00 ホテル → 住友赤平炭鉱立坑櫓 → アルテピアッツァ美瑛 → 昼食 → 小樽市総合博物館・小樽市内車窓 → ホテル(室蘭)
③	ホテル → 地球岬・工場群車窓・旧室蘭駅舎・旧三菱合資室蘭出張所・旧絵巻小学校・道の駅みたら → 新千歳空港 → 神戸空港 → 鹿兒島空港

●旅行代金 (お一人様)  
**3名1室 75,000円**  
**2名1室 78,300円**  
**1名1室 81,600円**

●食事条件  
 朝食2回、昼食3回、夕食2回  
 ●観光条件  
 下車観光(室蘭工場群、白鳥大橋は車窓予定)  
 ●申込方法  
 専用Webページにて申込  
<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/tantetsukohoku/>

●最少催行人員  
 30名(募集人員40名)  
 ●予定航空会社  
 全日空、スカイマーク  
 ●貸切バス会社  
 スマイル観光バス  
 /ガイドとして炭鉄の記憶 推進事業団同僚  
 ●船部屋ご希望ありましたら、申込時備考欄に記載ください。  
 ●部屋条件  
 1泊目個室: 2~3名1室、洋室: 1名1室/全室禁煙  
 (廊下スペースをご利用ください)  
 ※杜田炭鉄館の場合、お室バスタイレなしのお部屋になります。  
 2泊目洋室: 1~3名1室/禁煙・喫煙  
 ●添乗員 同行します

※旧三井芦別鉄道炭山川橋梁のオプションツアーは無料です。前日に希望を承ります。

宿泊日	ホテル名	住所	電話番号
11/19	芦別温泉スターライトホテル (又は) 秋田屋旅館	芦別市旭町油谷1 芦別市北1条西2丁目1番地2	0124-23-1155 0124-22-2795
11/20	室蘭プリンスホテル (又は) 第二プリンスホテル室蘭ビュー	室蘭市中央町1-4-9 室蘭市海岸町1丁目20-1B	0570-026-576 同上

※芦別温泉スターライトホテルにて希望部屋が満室の場合、夕食後、秋田屋旅館へご案内します。(車12分)  
 ※室蘭プリンスホテルにて希望部屋タイプが満室の場合、夕食後、第二プリンスホテルへご案内します。(車3分)

## みどころ

共 A・B両コース訪問 A Aコースのみ

**夕張市石炭博物館** **共**

日本遺産 道天然記念物等

日本屈指の石炭鉱業に関する産業博物館。地下での採炭の現場を再現した展示は圧巻。炭鉄港の基礎となった「炭」の全てがわかる。



**旧三井芦別鉄道炭山川橋梁** **A**

日本遺産 登録有形文化財

昭和20(1945)年、芦別で操業する三井炭山が石炭運搬専用線の延長のために建設し、平成元(1989)年3月の廃線まで活躍。橋の上には、懐かしいフォルムのディーゼル機関車DD501と、石炭専用貨車セキ3820を保存展示。その光景は往時の雰囲気がいまも、芦別が炭鉄で沸いた時代をほうふつとさせる。

**住友赤平炭鉱立坑櫓** **A**

日本遺産

1963(昭和38)年に建設された立坑櫓で、1994(平成6)年の閉山時まで使用されていた。橋高43.8m、深度650mで、同タイプの住友青別立坑の改良点が反映されている。閉山後も、建屋や機械・電気設備などが極めて良好な状態で残されている。立坑櫓の建屋内部をガイドツアーで見学できる全国有数の産業遺産。隣接する赤平市炭鉄遺産ガイダンス施設では、炭鉄の資料を展示している。

**安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美瑛** **A**

日本遺産

1950(昭和25)年に開校した小学校で、校区は炭鉄住宅街であったことから1959年には30学級・1250名となりピークを迎えたが、1981(昭和56)年に廃校となった。残された木造2階建校舎と鉄骨平屋建体育館(延床面積616㎡)は、1992年から彫刻家安田侃氏の彫刻美術館として活用されており、「炭鉄の記憶」の再生モデルとして注目。



# TanTetsuKou 炭鉄港2地区巡り 札幌泊

募集人員 20名



北の産業革命「炭鉄港」のストーリーにおける空知、小樽をめぐるコースになっております。2泊目は札幌にてゆっくりお過ごしください。

日次	行程
①	<p>ANA542 鹿児島空港 → 伊丹空港 → ANA773 新千歳空港 → ジンギスカン 昼食</p> <p>7:35 8:45 9:50 11:40 12:10 12:40 13:30</p> <p>夕張市石炭博物館 → そらち炭鉄の記憶 マネジメントセンター → ホテル(美瑛市)</p> <p>14:00 16:00 17:00 18:00 18:30</p> <p>食後:アルテピアッツァ美瑛ナイトツアー</p>
②	<p>※炭鉄港めし(あんかけ焼きそば)</p> <p>ホテル → 住友弁別炭鉄立坑槽/三笠市立博物館/ESSOR STORE → 昼食</p> <p>8:30 9:00 11:00 12:20 13:00</p> <p>小樽市総合博物館・小樽市内散策 → サッポロビール園 → ホテル(札幌)</p> <p>13:15 16:20 17:30 19:30 19:50</p>
③	<p>午前中フリータイム</p> <p>ホテル → 新千歳空港 → SKY174 羽田空港 → SKY137 鹿児島空港</p> <p>13:00 13:50 15:15 17:15 18:40 19:50</p>

●旅行代金 (お一人様)

2名1室 76,300円

1名1室 79,600円

- 食事条件 朝食2回、昼食2回、夕食2回
- 観光条件 下車観光
- 申込方法 専用Webページにて申込

<https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/tantetsukohoku/>

- 最少催行人員 15名(募集人員20名)
- 予定航空会社 全日空、スカイマーク
- 貸切バス会社 スマイル観光バス /ガイドとして炭鉄の記憶 推進事業団同乗
- 相部屋ご希望ありましたら、申込時備考欄に記載ください。
- 部屋条件 1泊目洋室:1~2名1室/全室禁煙 (室内喫煙スペースをご利用ください) 2泊目洋室:1~2名1室/禁煙、喫煙あり
- 添乗員 同行します

宿泊日	ホテル名	住所	電話番号
11/19	HOTEL BIJIKO	美瑛市北4条西4番1条南2丁目3番3号-1	0126-66-7100
11/20	ホテルグレイスリー札幌	札幌市中央区北4条西4丁目1	011-251-3211

※当日の状況によりご覧いただけない施設もございます。

## 運河周辺遺産

日本遺産

1880(明治13)年に幌内鉄道の一部である手宮~札幌間を結ぶ北海道最初の鉄道として開通し、北海道開拓に重要な役割を担ってきたが、1985(昭和60)年に廃線となった。市内中心部

には、旧国鉄手宮線で使用されていた鉄道施設を残しオープンスペースを整備し、オープンスペース以外の区間には当時の線路がそのまま残されている。



色内銀行街(旧三井商事小樽支店)



色内銀行街(旧三井物産)



小樽中央市場



小樽中央市場(ガンガン部隊)



日守宮

## 小樽市総合博物館

国指定重要文化財 日本遺産

北海道で最も充実した鉄道博物館で、国指定の重要文化財旧手宮鉄道施設(機関車庫三号)、蒸気機関車「しづか号」をはじめ、北海道を代表する50両もの鉄道車両が保存・展示されている。



## 旧室蘭駅舎

登録有形文化財 日本遺産

1912(明治45)年に建設された木造2階建ての駅舎。建築様式は寄棟造りで、明治の洋風建築の面影を残す屋根や白壁づくりの外観、外回りは入母屋風で「かんざ」と呼ばれるアーケード様式になっている。細部の意匠は、洋風で仕上げられており、軒下の持ち送り、屋根上のドーマー窓、方杖をもったアーケードの軒支柱、1階の縦長の窓等に特徴がある。



## 日本製鋼所M&E

市有形文化財 日本遺産

1907年(明治40)年、北海道炭礦汽船と英国アームストロング社・ピッカース社との共同出資により設立された製鋼工場。海軍軍艦の厚板や大砲の素材製造を主力としてきたことから、明治期からの軍需工場の雰囲気も今でも残っている。



(車窓)